

下野市立古山小学校

1 学校課題

文章を解釈し、自分の考えを表現できる資質・能力の育成

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

昨年度は国語科の説明的な文章において「文章を解釈し、自分の考えを表現できる資質・能力の育成」という研究主題のもと「文章を読み、学んだことを生かして、自分の考えを相手に分かるように表現する子ども」の育成を研究してきた。今年度は3年次となる。

(2) 研究の仮説

説明的文章を読む際に、言葉や文章構成などを手がかりに筋道を立てて筆者の考え（目的や意図、方法の工夫）を捉えることにおいて、自分の考えを相手に分かるよう表現できる指導方法を工夫すれば、論理的な思考力や日常生活で生きて働く力が育つであろう。

3 研究内容

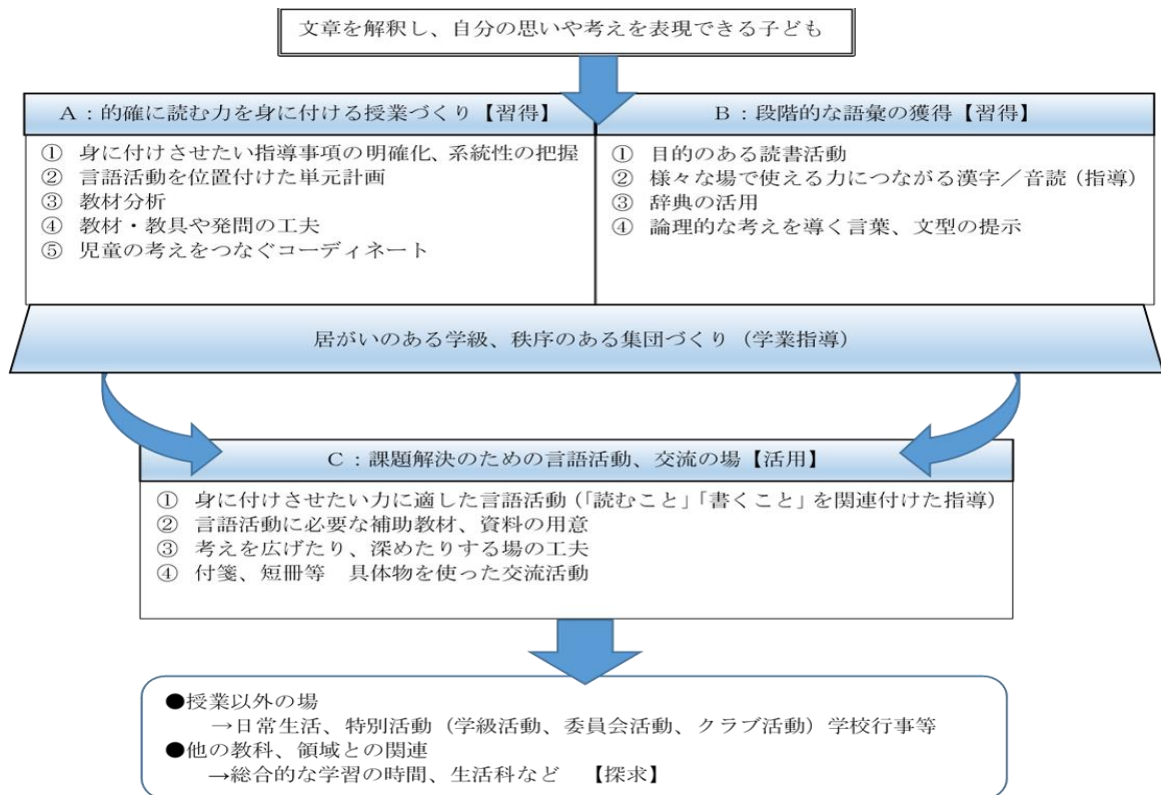
(1) 目指す児童像に迫るための課題や具体的な手立て

〈目指す児童像〉



文章を読み、学んだことを生かして自分の考えを相手に分かるように表現できる子ども

〈目指す児童像に迫るための課題〉



- ア 的確に読むために必要な力を明確にし、児童が確かな知識や技能として習得できるような系統的な指導を行うことが必要である。
- イ 読む力や考えの表現など学びを深めるために、書く活動との関連を図り、習得した「的確に読む力」を活用して課題解決のための言語活動を充実させる。
- ウ 相手に伝わるよう考えを表現するためには、目的のある読書活動を通して言語能力を支える語彙の段階的な獲得が必要である。



(2) 研究授業を通しての課題への取組

期日	学年・単元名等	授業の工夫・手立て (重点的に取り組んだ手立て)	児童の様子
7/28	2年 「友達カルタ大会をしよう」 	A④、B①、C②③ 「ことばの日」や国語の学習の中で言葉集めの活動を取り入れ、語彙数を増やしていった。集めた言葉をウェビング図にまとめることで、1つの言葉でも複数の言い回しがあることに気付かせた。また、「よいところ探しカード」や拡大カルタ図を使い、少人数グループで情報交換することで自分の力でカルタが作れるようにした。	○導入で「友達カルタを作る」という見通しをもつことができていた。 ○ウェビング図や掲示物があったので、スムーズに言葉を選んで友達カルタを作ろうとしていた。 ○自分が作ったカルタを読み直し、リズムよく読めるかどうかや言葉の言い換えができるかどうかを試しながらカルタ作りを進めていた。
10/25	4年 「プラタナスの木」 	A①②④、B①、C①③ 中心人物が変容するきっかけをいくつかの選択肢の中から選ばせることで、きっかけをどこで捉えるかによって、変容の仕方も変わること気付かせた。また、ICT機器を使って物語の魅力をポスターで伝える場を設定することで、自分の深まった考えを相手に伝えることができるようにした。	○いくつかの選択肢の中から選んだことで、進んで自分の意見を発表していた。 ○友達との対話を通して自分の考えを見直したり深めたりすることができた。 ○「魅力を伝えるためのポスターを作る」というゴールが児童と教師で共有することができていたため、必要感をもって授業に取り組む姿が見られた。

(3) 講話を通しての課題への取組

期日	講話内容	研究主題との関連
8/3	ワーク1 主体的な交流「あなたはどれを選ぶ？」 ワーク2 言葉の獲得「言葉から形へ」 ワーク3 感覚的から論理的「探偵に挑戦！」  	○目的を明らかにすることで「伝えたい」「聞きたい」という気持ちを高めることができる。交流の楽しさや良さを実感し、主体的な交流へとつなげる。 ○言葉は経験に基づいて理解が進んでいく。目的が明確な読解は集中力や意欲が高まる。根拠探しをすることで、感覚的な読解から理論的な読解へと高まっていく。

4 本年度の成果と課題

(1) 成果

- 板書や教室掲示を工夫したり、学習の流れを示したりすることで、児童一人一人が見通しをもって意欲的に活動することができた。
- 教師自身が言葉を大切にされた指導を積み重ねたことで、児童も言葉に対する意識が高まり、自分の思いや考えを表現できるようになった。

(2) 課題

- 国語科を中心に研究したことを、他教科・領域や日常生活でも生かすことができるような働きかけを具体的にしていく必要がある。